

中野の戦争体験

今から約五〇年前に現役兵として東部八八部隊へ入隊しました。十二月八日の真珠湾攻撃によって第二次世界大戦が始まった翌年正月でした。向台の町会の人たちに見送られて、中野坂上まで行き、そこで私は「戦争に勝つまでは断じて帰りません」と挨拶して、勇躍相模原へと向かったのです。考えてみれば、恥ずかしい限りです。当時、中野には電信隊があり、雨の中を出陣した様子などは今だに脳裏にあります。部隊では次第に食糧も乏しくなり、武器もなく、竹槍とわらじの履物でした。これでは戦争に勝てるわけがありません。原爆投下によって戦争は終結しました。現政府は「原爆投下の謝罪求めず」とか「日米開戦、深く後悔」と述べたと米紙が報道した、と伝えられた。人間より物資が、福祉より経済成長が、バターより大砲が、つまり人を生かす医療より人を殺す兵器が尊重される今日の政治の歪みに、私は怒りを覚えます。



佐藤 一雄
弥生町二丁目